

令和7年亀岡市議会定例会
令和8年3月議会一般質問

亀岡市議会

令和7年亀岡市議会定例会令和8年3月議会 一般質問順序予定表

開催日及び開始予定時間		質問者（会派名）		質問方式
3月3日（火）	10:00～	代表	1 齊藤 一義（経政会）	一括
			休憩	
	13:00～		2 竹内 博士（躍動～輪の風～）	一括
			休憩	
	14:30～		3 山木 裕也（北星志士の会）	一括
	16:00～		4 三上 泉（共産党議員団）	一括
3月4日（水）	10:00～	代表・個人	5 山本由美子（公明党議員団）	一括
			休憩	
	13:00～		6 菱田 光紀（新清流会）	一括
			休憩	
	14:30～		7 浅田 晴彦	一問一答
	15:15～	8 松山 雅行	一問一答	
3月5日（木）	10:00～	個人	9 木村 勲	一問一答
	10:45～		10 大西 陽春	一問一答
			休憩	
	13:00～		11 富谷加都子	一問一答
	13:45～		12 小林 仁	一問一答
			休憩	
	14:45～		13 大塚 建彦	一問一答
15:30～	14 土岐 新	一問一答		
3月6日（金）	10:00～	個人	15 片山 輝夫	一問一答
	10:45～		16 林 徹司	一問一答
			休憩	
	13:00～		17 大石 慶明	一問一答
	13:45～		18 平本 英久	一問一答
			休憩	
	14:45～		19 梅本 靖博	一問一答
15:30～	20 法貴 隆司	一問一答		

【注意】

質問者の日程については予定であり、議事の進行により変更する場合があります。ご了承ください。

令和7年亀岡市議会定例会令和8年3月議会 一般質問通告書

番号	質問者 質問日時	質問事項	質問要旨	答弁者
1	<p>齊藤 一義 3月3日(火) 10:00~</p> <p>※代表質問 (一括)</p>	<p>1 市長の政治 姿勢について</p>	<p>令和8年度一般会計予算464億2,700万円、特別会計318億7,000万円、総額782億9,700万円であるが、議員として市民の税金が妥当性、必要性に加え費用対効果や財政の健全化に基づき執行されているのか。市長が描く亀岡市のランドデザインを理解しつつ予算が市民福祉の増進につながるよう、市長の年頭の挨拶における「改革の年として新たなチャレンジをしてほしい」という言葉に基づいて提案型で質問する。</p> <p>(1) 令和8年度予算編成方針「人と時代に選ばれるリーディングシティ亀岡の実現」のため、基本的な考え方であるスクラップ・アンド・ビルドを徹底した上で、先進的で戦略的な魅力ある事業を創造・推進することに関連し「財源なくして市民福祉なし」の経政会として提案する。</p> <p>①年谷浄化センターにおける汚泥処理費用軽減は令和6年度決算特別委員会産業建設分科会事務事業評価でも指摘しているが、サーキュラーエコノミー市域内循環型経済に向けた環境先進都市にふさわしい先進的施設になるための事業計画を検討しているか。</p> <p>～緑を力に、未来を彩る亀岡の挑戦～本市においては住宅地において街路樹の撤去など緑をなくす動きもあるが、全米一住みたいまちともいわれるアメリカ オレゴン州ポートランドは「ローズ・シティ」や「フォレスト・シティ」と呼ばれるほど緑豊かで市民の誇りである。本市のように街路樹を伐採するのではなく大きく育てることを重視しており、秋の膨大な落ち葉掃除は、行政と市民が「共同作業」を行い、落ち葉と生ごみを混ぜて堆肥化にして有効活用をされている。これこそ、まさに緑を力に、未来を彩る亀岡の挑戦であると考えます。</p> <p>②本市も家庭の剪定枝や街路樹の落ち葉、農地の草などルールを定め回収、生ごみと混ぜ堆肥化する等有効活用、人と自然の循環共生型まちづくりを推進し、環境先進都市として市民の高揚感を高めてはどうか。</p> <p>ポートランドと比べれば、広大な土地を有しない本市では農業公園の家畜ふん尿にみられるように生ごみ搬入には悪臭の拡散が懸念される。</p>	<p>市長</p>

			<p>③乾燥した剪定枝や落ち葉を「炭化」させてから生ごみに混ぜ「非常に質が高い、臭わない堆肥」に向けた研究をしてはどうか。</p> <p>先日、亀岡経済同友会でご講演いただいたS ANGA COREの代表が、亀岡市の活性化には、亀岡にいつ来ても飽きない、何かのイベントに参加して楽しんで時間を過ごせたら、もっと交流人口が増えると述べられ、まちづくりは他先進国の都市計画のように、ほとんど経済的に投資できる企画提案であったと解釈した。</p> <p>④今年の全国都市緑化フェア in 京都丹波で整備した公園をレガシーとして、ポートランドのように経済効果あふれるグリーンループ化につなげてはどうか。</p> <p>緑あふれるまちにすれば副次的な公共の利益として、市民をより健康にしてコミュニティ活性化と犯罪減少、温室効果ガス対策、生態系サービスなどの利益があるといわれている。また、ポートランドのように自転車インフラに投資した地域は、経済活動の活発化、観光、不動産価値の向上など、大きな経済的インパクトを経験しているという研究結果がある。</p> <p>⑤京都丹波みどりの里まつりの会場となる、京都・亀岡保津川公園と亀岡運動公園を結ぶ自転車道を整備してはどうか。</p> <p>⑥亀岡のみどりの里の魅力を増幅させることとJR亀岡駅南地区回遊人口と交流人口を増やすため、南郷公園明智光秀像の後方から大本花明山植物園に向けた歩行者のみの木造橋梁を架ける計画はどうか。</p> <p>(2) 北陸新幹線亀岡ルートについて、市長は初夢として、亀岡ルート誘致にかじを取られた。市議会も決議案を提出する予定であり、新京都駅（亀岡市）が新大阪駅周辺や新横浜駅周辺のようなになれば本市活性化の大きな起爆剤になると考え応援するが「財源なくして市民福祉なし」の経政会として後世にツケを回さないための財源を提案する。基本となる考え方は「スピルオーバー」波及効果の還元で、新幹線誘致など通常は運賃収入だけで建設費を回収する考え方であるが、亀岡市の挑戦となる誘致の具現化として以下を提案する。</p> <p>①新幹線誘致こそ「社会的インパクト投資」導入を真剣に検討すべきであるがどうか。</p> <p>②公共工事の自治体負担軽減にSIB（ソーシャル・インパクト・ボンド）、行政・民間事業者・投資家が連携し社会課題の解決と行政コストの削減を同時に目指す成果報酬型の投資スキームのインフラ版を検討してはどうか。</p>	
--	--	--	--	--

			<p>③T I F（タックス・インクリメント・ファイナンス）、租税増収財源確保方式を検討してはどうか。</p> <p>④北陸新幹線亀岡ルート「新京都駅」誘致に向け「新幹線整備基金」など市民理解を得て市税の税率を上げるか、ふるさと納税を「新幹線整備基金」として積立てを考えてはどうか。</p> <p>(3) 安全で安心して暮らせるまちづくり、地域防災の要である消防団活動の支援と亀岡市消防団条例の一部改正が、今議会で提案されている。本市は団員出動手当や団員の報酬増額など処遇改善されているが、人口集中地域以外の団員は微減する一方である。活動費増額より団員の思いに寄り添う考え方で団員確保が必要と考える。そこで、亀岡市消防団アンケートにおいて「消防団活動として重要であると思う活動はどれですか？」の回答で、一番多い消火活動32%から続き、消防操法大会2%も「少数ながら重要と感じられている」とあるのに違和感がある。この際、消防ポンプ操法大会をやめて団員確保に取り組んだ方が団員充足につながり地域の防災力向上に効果があるかと考えるがどうか。</p> <p>(4) 子育て・福祉・健康のまちづくり、亀岡市の子どもファースト宣言による取組は大変評価される。新規事業の待機児童解消に向けた取組や、乳児等通園支援事業（こども誰でも通園制度）等は素晴らしい制度である。事業に向けた保育教諭や保育士は十分確保できているのか。</p> <p>(5) 障がいのある人とのコミュニケーションを大切にしたい意思疎通など、障がい福祉サービスの充実について、国は障がいのある人が可能な限り住み慣れた地域で暮らすことを目指し、大規模施設から小規模施設やサテライト型住居など、より地域に開かれた小規模な住まいへの「地域移行」を重要な柱として進めており、これにより、障がいのある人が様々な地域資源（交通・商店・医療）等を利用しやすくなるとしているが本市の取組を問う。</p> <p>①小規模になれば個々の障がい特性や生活習慣に応じた個別支援が必要である。今回、新規事業に人材確保事業経費も計上されているが支援人材の不足は改善されるか。</p> <p>②国の方針として地域移行が進められているが、本人の意識確認はどの段階でどのような方法で行われているか。</p> <p>③地域移行が数値目標や計画達成を優先するあまり、本人や家族が不安を招かないよう判断基準はどのように考えているか。</p>	
--	--	--	--	--

			<p>④重度障がい者グループホームの体制整備は充実しているか。</p> <p>⑤地域社会に移行した場合、家族負担が増えるケースがあると聞かすが、本市として家族支援対策の考えは。</p> <p>(6) 「ふるさと住民登録制度」では、観光やふるさと納税の寄附など地域経済の活性化に貢献する人を登録する「ベーシック登録」と、農業ボランティアや副業、その地方に生活拠点を持つ「二拠点住居」など有機栽培農家などの担い手になる人を「プレミアム登録」する方向であると同う。</p> <p>①プレミアム登録の場合、公共料金の利用料や交通費の割引など考えているのか。</p> <p>②有機栽培農家以外の農家への担い手は「プレミアム登録」とみなさないのか。</p> <p>③初年度の登録目標住民数は。</p> <p>(7) 市長は亀岡商工会議所新春年賀交歓会の挨拶で、流出口より流入人口が増えているが、自然減がそれを上回る、日本全体が人口減であるから、それを想定したまちづくりをすると発言があった。まさにそのとおりである。その思いを本市の持続可能なまちづくりの考え方として、次の「スマートシュリンク」（人口減少に歯止めをかけるという抑制戦略に過度に依存せず、人口が減っても市民のウェルビーイングが損なわれないようにする適応戦略を基本とする考え方）を取り入れたまちづくりをしてはどうか。</p> <p>①都市機能の集約化（コンパクトシティ）について、医療・商業・行政機関などの生活に必要な機能を住民の居住区域の中心に近づけて集約してはどうか。</p> <p>②公共サービスの効率化と最適化について、デジタル技術（DX）を活用したサービスの共同化・簡素化を進めてはどうか。</p> <p>③土地利用の転換について、低密度化が進む郊外の市街地において荒廃を防ぐため一部の土地を「みどり」や「農地」へ転換するなどの縮小・後退を誘導してはどうか。</p> <p>④経済社会の適応戦略について、人口減少によって生じる人手不足に対し生産性の向上、リスクリングによる労働力の流動性の向上といった政府の成長戦略もスマートシュリンクの一環であるが考えはどうか。</p> <p>スマートシュリンクの例として、山梨県早川町では過疎地に町営コンビニエンスストア（お金の使い道の見直し）がある。</p> <p>⑤畑野町で閉鎖したコンビニエンスストアや商店の再稼働に補助金等を検討する考えはないか。</p>	
--	--	--	--	--

			<p>(8) 新規事業の曾我部地区に伝わる歴史資料調査活用事業は、地域の歴史文化をよみがえらせ再発見する素晴らしい事業であると考え。今後、穴太寺・金剛寺・小幡神社の穴太地域を歴史的有形文化財地域と位置づけ、観光地としてプロモーションしてはどうか。</p>	
2	<p>竹内 博士 3月3日(火) 13:00~</p> <p>※代表質問 (一括)</p>	<p>1 令和8年度当初予算の編成方針について</p> <p>2 スクラップアンドビルドの考え方について</p> <p>3 行政体制改革について</p> <p>4 市民生活と国の交付金制度の見直しについて</p>	<p>当初予算は単年度の計画ではなく、「決算→執行→予算編成」という連動の中で検証されるべきものであると考える。その観点から予算編成について問う。</p> <p>(1) 令和6年度決算及び令和7年度執行状況をどのように分析・評価し、どの事業を見直し、その結果を令和8年度当初予算にどのように反映させたのか。</p> <p>(2) 限られた財源の中で、事業の優先順位や費用対効果をどのような基準・手法で評価しているのか。</p> <p>限られた財源と人員の中で、政策効果を最大化するためには、「何をやめるのか」という決断が不可欠である。スクラップなくしてビルドは成り立たない。事業見直しと行政体制改革の実効性について問う。</p> <p>(1) 廃止・縮小した事業は何か。また、職員配置の見直しはどこまで踏み込んだのか。</p> <p>(2) 本市における「事業をやめる基準」は明確に存在するのか。それは誰が責任を持って決断する仕組みとなっているのか。</p> <p>限られた人員と時間の中で、検証と改善を繰り返していくためには、従来型の業務の在り方を見直し、生産性を高める取組が不可欠だと考える。</p> <p>(1) 開庁時間変更等の働き方改革は、時間外勤務の削減にとどまらず、政策立案力や事業評価力の向上につながるのか。</p> <p>(2) DX推進事業や証明書のコンビニ交付拡充は、単なるシステム更新にとどまらず、データに基づく政策形成や迅速な意思決定にどのように結びついているのか。</p> <p>(3) 生成AIの導入検討状況と今後の方針は。</p> <p>物価高騰や国の共生交付金制度見直しにより、市民生活を取り巻く環境は不確実性を増している。単発的対応ではなく、持続可能な重層的支援体制をどのように構築するのか。本市の覚悟と戦略を確認する。</p> <p>(1) 物価高騰の影響をどのように把握しているのか。単発給付にとどまらない持続的支援策はあるのか。</p> <p>(2) 国依存ではない、本市独自の支援策の方向</p>	<p>市長 所管部長</p> <p>市長 所管部長</p> <p>市長 所管部長</p> <p>市長 所管部長</p>

		<p>性はどうか。</p> <p>(3)本市は、今回の交付金削減の情報をどのように受け止め、どの程度の影響が見込まれると分析しているのか。</p> <p>(4)引きこもりやヤングケアラーなど複合課題を抱える住民への支援を持続的に確保するため、単年度補助金に依存しない長期的・安定的な支援体制をどのように構築していくのか。</p>	
	5 高齢化対策について	<p>高齢化は日本全体の課題であると同時に、地域を支える力でもあると考える。今こそ「高齢者＝支えられる存在」という固定観念を超え、高齢化を前提としたまちの持続可能性戦略をどのように描いているのかを問う。</p> <p>(1)本市の高齢化を前提とした中長期ビジョンは明確に示されているのか。健康寿命延伸施策は十分だと考えるのか。</p> <p>(2)医療・介護・交通・防災の分野を横断した政策設計の現状と課題は。</p>	市長 所管部長
	6 中山間地域における過疎化対策について	<p>都市部と中山間地域を併せ持つ本市において、山間地域の持続可能性は自治体経営の根幹に関わる課題である。人口減少が進む中、将来像をどのように描き、集落維持に向けた実効性ある支援策を構築していくのかを問う。</p> <p>(1)山間地域の持続可能性について、市としてどのような将来像を描いているのか。</p> <p>(2)畑野町や西別院町等の若者による主体的地域活動に対し、継続的支援を強化するべきだと考えるが見解は。</p>	市長 所管部長
	7 防災・減災対策について	<p>行政改革の目的は効率化ではなく、市民の命を守る体制の強化である。自然災害の頻発と高齢化の進展を踏まえ、救急搬送体制や広域連携拠点の整備など、中長期的な備えの現状と方向性について問う。</p> <p>(1)雪害・豪雨時における救急搬送体制は現状どのように確保されているのか。</p> <p>(2)高齢化に伴い増加が見込まれる救急需要に対し、中長期的にどのような備えを講じているのか。</p> <p>(3)JA京都本店跡地「かめおか防災広場」について、物資集積・避難支援・広域連携拠点としての活用方針は。</p>	市長 所管部長
	8 子育て支援・少子化対策について	<p>子育て支援は将来の担い手を育てる「未来への投資」である。出生数減少という現実を直視し、子どもファースト事業を軸にどのような戦略的優先順位を描いているのかを問う。</p> <p>(1)子どもファースト事業及び少子化対策は、令和8年度予算においてどのような優先順</p>	市長 所管部長

		<p>位で位置づけられているのか。</p> <p>(2) 保育人材確保策は実効性を伴う内容となっているのか。</p> <p>(3) 子育て世帯の市民の声をどのように把握し、政策へ反映させているのか。</p>	
	9 地域経済の持続可能性について	<p>持続可能な財政運営には、歳出削減だけでなく、地域が自ら稼ぐ力を高める視点が不可欠である。全国都市緑化フェアやJR亀岡駅南開発を契機として、都市ブランドと産業戦略をどのように結びつけるのかを問う。</p> <p>(1) 全国都市緑化フェアを将来世代へのレガシー形成へどのようにつなげるのか。開催後の産業戦略と跡地利用や活用の方針は。</p> <p>(2) JR亀岡駅南側及びスタジアムを中心とした将来産業戦略の方向性は。</p>	市長 所管部長
	10 北陸新幹線について	<p>交通ネットワークは都市の将来像を左右する戦略要素である。北陸新幹線延伸計画を、本市の産業振興・人口戦略とどのように連動させるのか、その位置づけと意思を確認する。</p> <p>(1) 北陸新幹線延伸計画のうち、亀岡市を通るルート案について、本市における位置づけと、今後、国・関係機関へ働きかけを行っていく方針はあるのか。</p> <p>(2) 産業振興・観光振興・定住促進を見据えた都市ビジョンをどのように描いているのか。</p>	市長 所管部長
	11 環境先進都市戦略について	<p>環境政策は理念の提示にとどまらず、経済や定住戦略と結びついてこそ本市の持続可能性を高めると考える。掲げる環境先進都市ブランドを、どのように都市戦略の中核へつないでいくのかを問う。</p> <p>(1) 環境先進都市ブランドを移住促進・企業誘致・若年層定住戦略にどのように結びつけるのか。</p> <p>本市の「環境先進都市」を目指す施策の中で実施されているふれあい収集は、単なる資源回収にとどまらず、高齢者の安否確認や生活状況把握といった福祉的機能も担っている。環境施策と高齢福祉施策を連携させることは、地域課題の解決と持続可能なまちづくりにつながると考える。</p> <p>(2) ふれあい収集の環境施策と高齢福祉施策を効果的に連携させる方針や具体的取組について、市としてどのように考えているのか。</p>	市長 所管部長
	12 教育政策について	<p>人への投資こそがまちの未来を決定づける。教員の多忙化や不登校の増加という現実を踏まえ、教育の質の向上と本市独自の人材育成戦略をどのように構築しているのかを確認する。</p> <p>(1) 教員の働き方改革は、業務削減という実効的な形で進んでいるのか。</p>	市長 教育長 所管部長

			<p>(2) 不登校の現状と今年度の支援体制は。</p> <p>(3) 自然教育を環境先進都市の人材育成戦略として、どのように位置づけ、その成果をどのように検証しているのか。</p> <p>(4) 本市が目指す「亀岡らしい教育」とは何か。その理念と具体策は。</p>	
3	<p>山木 裕也 3月3日(火) 14:30~</p> <p>※代表質問 (一括)</p>	<p>1 令和8年度 予算について</p> <p>2 子どもファースト宣言施策の実効性について</p> <p>3 体育館の空調設備について</p>	<p>令和8年度当初予算は、一般会計464億2,700万円、特別会計318億7,007万円、合計782億9,707万円と8年ぶりの減額編成となったが、依然として過去2番目の規模であり、市政運営への強い意思が示された予算であると受け止めている。一方で、今後の持続可能な財政運営と成果の明確化がますます重要になると考える。そこで、以下について問う。</p> <p>(1) 本予算編成において特に重視した基本方針及び重点施策は何か。</p> <p>(2) 近年の一般会計規模の推移を踏まえ、財政の持続可能性についてどのように評価しているか。</p> <p>(3) ふるさと納税35億円の積算根拠及び、その成果をどのように市民サービス向上につなげていくのか。</p> <p>(4) 限られた財源の中で、重点投資分野をどのような観点で選定したのか。</p> <p>本市は「子どもファースト宣言」を掲げ、施策を展開しているが、理念を成果につなげ、市民が実感できる施策とするためには、効果の把握と見える化が不可欠である。そこで、以下について問う。</p> <p>(1) (仮称)キッズステーション整備事業について、どの程度の利用を見込み、子どもや保護者にとってどのような効果を目指しているのか。また、その成果をどのように把握していくのか。</p> <p>(2) 令和7年9月議会において原野議員から質問のあった、ガレリアかめおか1階「ばすてるスイーツ」の夏季暑さ対策について、その後の検討経過及び現在の進捗状況並びに今後の具体的な対応方針はどうか。</p> <p>(3) ALT増員について、児童生徒の英語力向上や教育環境改善にどのような効果を期待しているのか。また、その成果をどのように測定していくのか。</p> <p>猛暑の常態化及び避難所機能強化の観点から、体育館環境整備の必要性は高まっている。安全確保及び防災機能強化の視点から、以下について問う。</p> <p>(1) 市内小・中・義務教育学校での体育館の空調設置状況はどうか。</p>	<p>市長 所管部長</p> <p>市長 教育長 所管部長</p> <p>市長 教育長 所管部長</p>

		<p>4 市内小学校における安全の制度化について</p>	<p>(2) 体育館利用中の熱中症による救急搬送事例はあるか。</p> <p>(3) 体育館空調整備を避難所機能強化の中でのように位置付けているか。</p> <p>(4) 段階的整備計画を策定する考えはあるか。</p> <p>昨年度、全小学校において不審者対応訓練が実施され、新型防犯用具が導入されたことは高く評価するものである。しかしながら、安全対策は単年度の取組にとどまらせることなく、制度として定着させ、さらに本格的な訓練を継続的かつ計画的に実施していくことが重要であると考え。そこで、以下について問う。</p> <p>(1) 不審者対応訓練の実施状況及び新型防犯用具の配備・活用状況の現状はどうか。</p> <p>(2) 安全対策を継続的に実施していく上での課題をどのように認識しているか。</p> <p>(3) 警察等関係機関と連携した不審者対応訓練を制度として定着させ、継続的に実施する体制を構築する考えはあるか。</p>	<p>市長 教育長 所管部長</p>
		<p>5 高齢者の生活基盤強化について</p>	<p>高齢化に伴い、買物支援をはじめとする生活支援施策の重要性は一層高まっている。移動販売事業は大きな成果を上げており、また来年度から「ふれあい収集・高齢者支援モデル事業」が開始される予定である。しかし、これらを個別施策として実施するだけでなく、将来にわたり持続可能な生活支援体制として制度設計する視点が重要であると考え。そこで、以下について問う。</p> <p>(1) 移動販売事業及びふれあい収集事業について、将来的な財源確保や人手不足などの課題をどのように認識しているか。</p> <p>(2) サービス提供地域の偏在や空白地域の状況をどのように把握し、地域間格差の解消に取り組むのか。</p> <p>(3) 移動販売やふれあい収集に、見守り機能や福祉相談機能を制度的に組み込み、地域包括支援センター等と連携する仕組みを構築する考えはあるか。</p> <p>(4) 今後、行政主体にとどまらず、各自治会や地域団体、民間事業者が参画し、有償で高齢者支援を担う仕組みを制度化する考えはあるか。</p>	<p>市長 所管部長</p>
		<p>6 山の再生と放置竹林対策について</p>	<p>本市は市域の多くを山林が占めており、竹林整備を含む森林管理は防災及び環境保全の観点から重要な政策課題である。河原林地区において竹林整備が着工されたことは前進であるが、全市的戦略と財源の透明性が求められる。そこで、以下について問う。</p> <p>(1) 河原林地区竹林整備の進捗状況、整備面積及び完了見込みは。</p>	<p>市長 所管部長</p>

		<p>7 ハーフマラソンの今後の戦略的展開について</p>	<p>(2) 整備後の維持管理体制及び再発防止策は。 (3) 市内全体の放置竹林対策における課題は。</p> <p>京都亀岡ハーフマラソン大会は本市を代表するスポーツイベントであるが、人口減少社会においては、交流人口拡大及び地域経済活性化に資する戦略的展開が求められる。とりわけ、日帰り型イベントから宿泊を伴う滞在型イベントへ発展させることは、経済波及効果の向上に直結すると考える。スポーツツーリズムの推進及び京都丹波ブランドとの連動の観点から、以下について問う。</p> <p>(1) 直近3年間の参加者数推移及び市外参加者割合はどうか。</p> <p>(2) 大会による経済波及効果について試算しているか。また、宿泊を伴う参加者の割合は把握しているか。</p> <p>(3) 観光振興施策及び京都丹波ブランド戦略と連動し、前日・当日を含めた滞在型プログラムを構築する考えはあるか。</p> <p>(4) トレイルランやファミリーラン等を組み合わせた複合型スポーツイベントへの発展を検討してみてもどうか。</p>	<p>市長 所管部長</p>
4	<p>三上 泉 3月3日(火) 16:00~</p> <p>※代表質問 (一括)</p>	<p>1 市長の政治姿勢について</p>	<p>今年に入り、日本内外の情勢は激動している。新年早々、アメリカによるベネズエラへの軍事介入は、国連事務総長が懸念する声明を発表したとおり、力による現状変更にはかならず、国際法の原則が尊重されていない事態である。テロや重大犯罪で自国が脅かされるおそれのある場合は武力行使が許容されるかの風潮が高まる中、事務総長は、「ベネズエラの状況とは別に、これらのでき事は危険な前例となる」と警鐘を鳴らしている。また、アメリカトランプ政権による、デンマーク自治領グリーンランドの領有要求は、多くの国から非難の声が上がっている。一方、国内では、アメリカの要求に応え、防衛費だけを異常に増額させる高市政権が、積極財政の名のもとに赤字国債を増やすことで円安が加速し、株価は上がるものの、物価高騰に歯止めがかからず、国民の暮らしはさらに厳しさを増し、貧富の格差はさらに広がっている。本市では、高い理想や理念のもと、様々な「宣言」がなされており、そう遠くない将来を期限とした、各宣言の目指すゴールに向かう具体的施策が求められている。しかし、それらは、今を生きる市民の暮らしや安全を守ることと重なり合いながら進められることが求められている。市長が示した施政方針や、第5次総合計画に基づく予算編成方針に対し、以下の点でその姿勢を問う。なお、「将来へのまちづくりの方向性として」で始まる質問に対しては、短い期間での可否や財源論に基づく是非ではな</p>	<p>市長 教育長 所管部長</p>

			<p>く、各宣言等の理念に基づく長期的なまちづくりを見通し、可能性を追求する立場での答弁を求める。それ以外の質問項目は、市民の声や願いをもとにした緊急に検討を要するものとして、誠実に答えられたい。</p> <p>(1) アメリカによるベネズエラへの力による現状変更に対して、世界連邦非核平和都市を宣言している本市として、いかなる場合でも力による現状変更は認められないという立場で声明を出すなど、世界に対して平和を求める発信をすべきではないか。</p> <p>(2) 円安や物価高騰による、市民や事業者の経済的状況をどのようにとらえているか。</p> <p>(3) 経済的弱者に対する持続的な支援が求められているが、それらの施策充実に対する所見は。</p> <p>市長は、北陸新幹線の「亀岡ルート」の実現並びに本市への「新駅設置」を正式に要望することを表明した。</p> <p>(4) 市長の言う「亀岡ルート」とは、敦賀から亀岡までをどのようなコースで延伸させることを想定しているのか。</p> <p>(5) 市長の言う「豊かな自然環境への影響や費用負担など、決して少なくはない克服すべき課題」とは具体的にどの程度のことを想定しているのか。</p> <p>(6) 市長が言う「本市の将来像に大きなチャンスをもたらす秘めた可能性」と「決して少なくない克服すべき課題」とを比較し包括的にみて、「亀岡ルート」実現は、市民福祉の増進にとって本当にプラスとなるのか。</p> <p>今年、市が総力を上げて取り組まれる「第43回全国都市緑化フェア in 京都丹波」は、亀岡市や京都丹波地域の魅力を全国や世界に発信する機会としているが、市民生活にとってもプラスになるものでなければならない。</p> <p>(7) 本市が使う事業費の総額はどのようになる見込みか。</p> <p>(8) 各会場となる場所での整備や工事が始まっているが、全体として余裕をもって完成・完了するのか。</p> <p>(9) 会場やその周辺の整備で、普段から会場となる施設を利用する市民の意見を踏まえた施設等の整備がどの程度できるか。以下の点を例に挙げて問う。</p> <p>①亀岡運動公園の周囲を巡らすフェンス等にかかり傷んでいる箇所があり、見栄えが悪くだけでなく危険であるが、それらはどうなるのか。</p> <p>②壁打ちコート防球ネットの修繕、トイレの洋式化と増設、日陰や雨除けになるあずまの増設、更衣室の整備やシャワー室の</p>	
--	--	--	--	--

			<p>設置など、テニスコートや野球場を利用する市民の要望に応える整備も同時に行えないか。</p> <p>(10) 会場となる京都・亀岡保津川公園に、亀岡市の鳥となったコウノトリの巣塔を造るといわれているが、食物連鎖の頂点にあるコウノトリは魚やドジョウを大量に捕食する。アユモドキの生育に多大な影響が出ないか心配であるが、多くの専門家による助言を受けた上で検討されたのか。</p> <p>令和5年2月に発せられた「オーガニックビレッジ宣言」の理念や取組の方向性については大いに評価するものであり、学校給食が全て有機米提供できるようになることを期待し、さらに地域商社の取組とも相まって「稼ぐ力」のエンジンとなることもよいことであるが、有機米の収穫量は低く、なかなか苦戦されている営農者も少なくないと聞く。</p> <p>(11) 有機米・野菜の生産の現状と課題は。</p> <p>(12) 将来へのまちづくりの方向性として、継続的に営農できるように、昨年12月議会で片山議員が提案した、米作への支援金や奨励金など営農者を支援する市独自の施策を導入・充実させるべきではないか。</p> <p>「かめおか脱炭素宣言」「かめおかプラスチックごみゼロ宣言」の目標達成に向け、従前から、「使う責任」だけでなく「つくる責任」を問うような取組が必要であると訴えてきた。それをなくして目標達成はあり得ないと考える。</p> <p>(13) 市長やエコロジックミュージアムプロジェクト内で「つくる責任」についての具体化について、どのように議論されているか。</p> <p>(14) 将来へのまちづくりの方向性として、無公害自動車購入に対する独自支援金、制度としてではなくとも、自主的な自動販売機の撤去や、社会実験として店舗の一区画に、プラスチック容器やラッピング、ビニール袋などを用いず、購買者に容器を持参してもらい量り売りをするコーナーを設けるなどの取組を行って検証してみてもどうか。</p> <p>(15) 将来へのまちづくりの方向性として、有機農業の推進や、脱炭素、プラスチックごみゼロ宣言の目標達成に向け、かめおかエコロジックテクノロジーパーク（仮称）として、それらに関連する企業に絞った企業団地の誘致と連携を行ってはどうか。</p> <p>(16) 将来へのまちづくりの方向性として、ごみの埋立ても焼却もしないまちを目指し、新たな施設をつくらないことになっているが、ごみの減量、ゼロを目指すとともに、どうしても生じるごみの処分につい</p>	
--	--	--	--	--

		<p>2 子どもたちへの豊かな教育環境整備について</p>	<p>て、近隣自治体との連携が言われているが、具体的な見通しは。</p> <p>これまで議会の場で「移動権は生存権である」と訴えてきた。市長はじめ理事者もその考え方には賛同していると認識している。現時点においては、JR、バス・タクシーの事業者などと連携する中で、地域公共交通会議で計画を立てており、同時に地域住民の移動手段の確保として地域主体型交通を推奨しているが、そう遠くない将来において、持続可能な新たな交通体系を市が主導して構築していく必要があるのではないかと考える。</p> <p>(17) クロスセクターベネフィットの考え方に基づく、地方公共団体による公共交通への費用提供（無償化など）に対する所見は。</p> <p>(18) 将来へのまちづくりの方向性として、脱車社会を目指し、教育分野・福祉分野のニーズにも対応する、環境に優しい地域公共交通システムとして、低・無公害小型車によるデマンド型無償交通を、市が主体になって行うことを長期的計画として検討してはどうか。</p> <p>(19) 当面する課題として、市民からの要望が強い、乗換えなしで市役所やギャラリーかめおかなど市街地中心まで行ける、コミュニティバスやふるさとバスの運行は何故実現できないのか。</p> <p>子どもファーストを掲げる本市として、子どもたちの豊かな成長発達と安全・安心の学校生活を保障する教育環境の充実が望まれている。</p> <p>(1) 児童生徒、家庭、教職員の負担軽減のためにも育親学園の通学バスはもう1台必要である。早急に解決できないのか。</p> <p>(2) タブレット端末導入以降、学校現場からは、タブレットを多用することで、「鉛筆がちゃんと持てない」「文字がきちんと書けない」「漢字が覚えられない」「聞く力が弱くなっている」などの声が聞こえてくる。海外では、教科書をタブレット端末から全て紙媒体に変えた国もある。タブレット端末による学習指導の効果（功罪）について、発達段階別にしっかりと検証すべきではないか。</p> <p>(3) 特別支援学級に入級する児童生徒や、特別支援学校に就学する児童生徒が増えている。特に本市は顕著にその傾向がある。発達検査を受けたくても順番が回ってこなくて、やっと診断が出ても次年度からの入級や就学は無理だと言われて困っている保護者もある。現状の把握と今後の支援の方向性は。</p>	<p>教育長 所管部長</p>
--	--	-------------------------------	---	---------------------

5	<p>山本由美子 3月4日(水) 10:00~</p> <p>※代表質問 (一括)</p>	<p>1 安全で安心して暮らせるまちづくりについて</p> <p>2 子育て・福祉・健康のまちづくりについて</p> <p>3 豊かな学びと文化を育むまちづくりについて</p>	<p>東日本大震災の発災から15年を迎えようとしている。今なお、全国で自然災害が頻発・激甚化している現状があり、さらなる防災対策が重要と考える。</p> <p>(1) 過去の教訓を風化させることなく、また、国際安全都市を宣言した本市として、さらなる「安全・安心なまちづくり」を推進することについて、具体的な取組も含め市長の思いを伺う。</p> <p>言語の理解能力や社会性が高まる時期である5歳児に対して健康診査を実施し、精神や社会性の発達の評価をあわせて行うことで、子どもの特性を早期に発見し適切な支援につながると考える。幼児の健康保持及び増進を図ることは極めて重要である。</p> <p>(1) 5歳児健診の導入に当たっては、医療・保健・福祉・教育が一体となったフォローアップ体制の構築が不可欠とされている。実施に当たり、どのように支援体制を強化し、実効性を担保していく考えか。</p> <p>高齢者が住み慣れた地域で暮らし続けるために多様な実施主体による生活支援サービスが令和8年度にモデル事業として展開される。</p> <p>(2) 高齢者支援モデル事業実施の背景と趣旨は。</p> <p>(3) 多様な実施主体による高齢者支援とあるが、想定される実施主体やサービス内容、対象者は。</p> <p>(4) 生活支援サービスの提供体制をどのように構築していくのか。</p> <p>(5) 本事業は『モデル事業』との位置づけであるが、本格実施へと移行する際の、具体的な判断基準は。</p> <p>加齢性難聴を放置して意思疎通が難しくなれば、認知機能の低下やうつ、社会的孤立につながるリスクが高まるとされており早期の支援が求められている。</p> <p>(6) 補聴器購入費用を助成することで、積極的な社会参加や地域交流を促すとあるが、具体的な支援の内容と適切に利用し続けるための仕組みは。</p> <p>学校給食は、子どもたちの健やかな成長を支えるとともに、食への理解を深める食育の重要な場でもある。今般、給食費を実質支援する国の新たな仕組みが導入されることは、保護者の経済的負担の軽減と子育て支援に注力する自治体を後押しするのみならず、給食のさらなる質の向上に向けた取組を加速するものとして、期待が寄せられている。</p> <p>(1) 2026年度において、児童一人当たり、1か月5,200円の補助基準額を超える部</p>	<p>市長 所管部長</p> <p>市長 所管部長</p> <p>市長 教育長 所管部長</p>
---	---	--	---	--

			<p>分については、学校給食法に基づき、引き続き、保護者から給食費を徴収することが可能であるが本市の考えは。</p> <p>(2) 重度のアレルギーなどの事情で給食を喫食していない児童への対応については学校設置者の判断に委ねられている。国からの支援額が給食実施校の在籍児童数に基づいて積算されることを踏まえ、本市における現在の検討状況と今後の支援の在り方について見解は。</p> <p>(3) 国からの支援金について各自治体での適正な管理が求められる中、本市における学校給食費の公会計化に関する検討状況と実施に向けた今後の見通しは。</p> <p>(4) 給食の質向上に向けた取組も求められているが、本市の現状と今後の取組方針は。 学校体育館は子どもたちの教育の場であり、災害時には地域住民の生命を守る避難所としても重要な役割を担う。空調整備を加速させ、児童生徒並びに避難者も安心して過ごせる環境を整えることが重要である。</p> <p>(5) 学校体育館の空調設備の整備完了に向け、優先順位や空調方式なども含め、どのような計画で進めていくのか。また、早期にトイレの洋式化を望む声も多く聞かすが、現在の進捗と今後の見通しは。</p>	
	4 地球にやさしい環境先進都市づくりについて		<p>少子高齢化をはじめとする社会状況の変化により、多くの地域でコミュニティの衰退が課題となっている中、資源回収を入口に地域の方々が集う交流拠点が整備される。</p> <p>(1) この事業にはどのような意義が込められ、地域住民が集うための仕掛けを、今後どのように展開・波及させていく考えなのか。</p>	市長 所管部長
	5 活力あるにぎわいのまちづくりについて		<p>令和8年度より本市では地域商社「ONEかめおか」が本格始動し、有機・自然・環境を軸に地域資源の収益化に向けての取組が始まる。</p> <p>(1) 戦略的なマーケティングや販路開拓など、収益性を確保するための具体的な「攻め」の手立て及び地域商社としての真価をいかに発揮していくのか、今後の展望と決意は。</p>	市長 所管部長
	6 全国都市緑化フェア in 京都丹波について		<p>本年9月18日には、国内最大級となる花と緑の祭典「第43回全国都市緑化フェア in 京都丹波」が開幕する。京都・亀岡保津川公園や亀岡運動公園などを最大限に活用し、「環境」「食農」「芸術」をテーマに、本市が誇る豊かな自然環境や多彩な魅力を全国に発信する絶好の機会となる。この緑化フェアを、単なるイベントにとどめることなく、地域全体の活性化と輝かしい未来へとつなげていくことが期待される。</p>	市長 所管部長

		<p>7 介護人材の すそ野拡大に向 けた取組につい て</p>	<p>(1) 市民一人ひとりが「おもてなし」の主役となれるよう、どのような参加型プログラムを用意し、市民のシビックプライドを高めていくのか。</p> <p>(2) 市内の小・中・義務教育学校の児童生徒が、この緑化フェアを通じて郷土の自然環境や文化を学ぶ機会をどのように創出する考えなのか。</p> <p>(3) 近隣自治体との広域周遊を促進する上で、二次交通の利便性や移動コストの負担が課題となる。特に、鉄道の利用環境のスマート化や、高速道路を活用した広域的なアクセス支援について、現在の取組と関係機関への働きかけは。</p> <p>(4) 緑化フェアで紹介される地元の農産物や食文化を、一過性の販売で終わらせない仕組み作りについて考えは。</p> <p>(5) 緑化フェアのような大規模イベントにおいて課題の一つが日帰り客をいかに滞在（宿泊）につなげるかである。地域経済への波及効果を最大化する観点から、夜間も楽しめるナイトイベントを考えられないか。</p> <p>(6) 会場となった公園や整備されたインフラを、閉幕後にどのように維持管理し、利活用していくのか。</p> <p>(7) 開幕に向けて、改めて緑化フェアが紡ぐ市民の幸福な未来と、このまちの可能性について市長の思いは。</p> <p>超高齢社会の日本では、介護の担い手不足が深刻な社会問題になっている。2040年には介護職員が約57万人足りなくなると見込まれている中、無資格・未経験や空き時間を持つ方々の力を介護現場において生かす仕組みづくりが注目されている。</p> <p>(1) 介護人材の不足や、将来に向けた介護施策の在り方について、本市としてどのように認識しているのか。また、その対応は。</p> <p>(2) 介護職員の業務負担軽減の観点から、無資格・未経験者による周辺業務の担い手確保の必要性について考えは。</p> <p>(3) 福祉業界の人手不足が深刻化する中、介護など福祉事業所と、地域の有償ボランティアをインターネット上でつなぐマッチングサービス「スケッター」事業が注目されている。介護にかかる関係人口を拡げるため、この仕組みの導入を検討すべきと考えるがどうか。</p> <p>(4) 厚生労働省の令和8年度予算概算要求において、新規事業として「介護未経験者から介護の担い手となるまでの一体的支援事業」が示されている。こうした国の動きを踏まえ、本市としても当該補助金の活用を視野に入れ、介護人材の確保に向けた取組を推進すべ</p>	<p>市長 所管部長</p>
--	--	--	--	--------------------

		<p>8 亀岡市立病院での新たな取組について</p>	<p>きと考えるが、見解は。</p> <p>亀岡市立病院では、乳がん早期発見のための新たな選択肢として「無痛MRI乳がん検診」の導入に向け準備が進められている。これにより、市民の生命と健康を守るための取組がさらに前進することが期待されている。</p> <p>(1) 対策型検診においてはマンモグラフィ検査が基準となっているが、その上で今回、新たに「無痛MRI乳がん検診」を導入する目的と今後どのように両検査を並行・補完させていくのか。</p> <p>(2) 検診料の設定や、市独自の検診助成制度についてはどのように検討しているのか。</p> <p>(3) 平日、仕事を持つ現役世代も受診できるように、検査日時の設定や予約システムの簡略化など、利便性向上への考えは。</p> <p>(4) 「痛くない」「見られない」といったメリットを、どのように市民へ周知していくのか。</p> <p>(5) 市民の健康を守るとともに、病院のブランド力を高めることについて見解は。</p>	<p>市長 病院事業管理者 所管部長</p>
6	<p>菱田 光紀 3月4日(水) 13:00~</p> <p>※代表質問 (一括)</p>	<p>1 市長の政治姿勢について</p>	<p>2022年にカナダのモントリオールで開催された国連生物多様性条約第15回締約国会議(COP15)において、2030年までに生物多様性の損失を止め、回復軌道に乗せるという方向性が国際的に明確にされた。そういった中、ネイチャーポジティブ(自然再興)という言葉が注目されつつある。一方で、グリーンインフラという言葉が定着し、ネイチャーポジティブ表現において重要な役割を担うといわれている。こういった時代の流れの中で本年、「第43回全国都市緑化フェアin京都丹波」が地方都市で初めて開催される。この地方都市ならではの豊かな自然や文化などを通して都市部にはない癒しや生物多様性の取組が感じられる仕掛けが必要である。私は、令和7年12月議会の一般質問で市の鳥「コウノトリ」の生息環境を整えることを通して生物多様性に取り組むべきと提案した。</p> <p>(1) 「第43回全国都市緑化フェアin京都丹波」を通して来場者にどのように亀岡の自然の豊かさを伝えようとしているのか。</p> <p>(2) この事業に対して市民の関心度はまだまだ高まっていないという声を耳にするが、市民の関心度をどのようにして高めるのか。</p> <p>(3) 市民の関心度を高めるには、いかに市民参加を促すかも大事だと思うが、市民を巻き込むための手法は。</p> <p>(4) ネイチャーポジティブの視点からの緑化フェアであってほしいと願うが、そのような思いは加味されているのか。</p>	<p>市長</p>

		<p>(5) ネイチャーポジティブへの取組は、企業の関心度も高い。このことは、市長のトップセールスに組み込まれているのか。</p> <p>国土交通省は、「グリーンインフラ推進戦略2030」において、グリーンインフラを「自然の多様な機能を活用した社会資本」と位置づけている。また、2027年に横浜市で開催される国際園芸博覧会（横浜花博）は、NbS（自然を活用した解決策）がテーマとなっている。</p> <p>(6) 緑化フェアと相互協力されると聞く横浜花博に先立ってグリーンインフラの整備計画を明確にすべきと考えるが所見は。</p> <p>「推し活」というものがある。この緑化フェアを通して亀岡に向けての「推し活」をしてもらえるような取組が必要である。</p> <p>(7) 自然、環境、観光や農業、伝統文化などを通して「推し活」につながる取組を実施してはどうかと考えるが所見は。</p> <p>全国で2番目にオーガニックビレッジ宣言を行った亀岡市として、桂川市長は、「オーガニックビレッジ全国首長の会（仮称）」の設立準備を進めておられると所信で述べられた。</p> <p>(8) 具体的にどのように取り組まれるのか。</p> <p>京都サンガF.C.のクラブハウスや練習場の誘致に向けて検討されている。</p> <p>(9) 現状はどのようになっているのか。</p> <p>(10) 候補地選定後の進め方は。</p> <p>(11) 完成までの予定期間は。</p> <p>(12) スポーツ観光にどのようにつなげるのか。</p> <p>北陸新幹線整備計画に関して「与党整備新幹線建設推進プロジェクトチーム」では、延伸ルート8案が挙がっている。</p> <p>(13) 「亀岡ルート」を検討すべきとの発言について市長の思いは。</p> <p>市長は、世界連邦都市宣言を行った自治体で構成されている世界連邦宣言自治体全国協議会会長を綾部市長から引き継がれた。</p> <p>(14) 会長として他の宣言自治体に今後どのように働きかけるのか。</p> <p>(15) 亀岡市民への意識醸成にどのように取り組むのか。</p> <p>市役所庁舎西側に思いやり駐車場が整備されている。そこから庁舎への出入り口として一番近い庁舎西側の入り口ドアが重く、大きな障害となっている。</p> <p>(1) この入り口のドアを自動ドアにできないのか。</p>	<p>市長 所管部長</p>
--	--	--	--------------------

		3 期日前投票所の対応について	<p>先般、衆議院議員総選挙が執行された。投票日が雪予報ということもあって、全国的に期日前投票が増え、本市も例外ではなかった。投票日の前日、前々日などは駐車場も満車に近い状態が続き、投票所への入場にも大きな行列ができていた。</p> <p>(1) 期日前投票における前回の衆議院議員総選挙や昨夏の参議院議員通常選挙時と期日前投票も含めたそれぞれの投票状況の比較はどうであったか。</p> <p>(2) 入場を待つ有権者のために市民ホール入り口に椅子の準備はできなかったのか。</p>	市長 所管部長 選挙管理委員会委員長
7	浅田 晴彦 3月4日(水) 14:30~ ※一問一答	1 全国都市緑化フェアについて	<p>令和8年9月18日から11月8日まで開催される第43回全国都市緑化フェア in 京都丹波は、緑ある素敵なまちづくりを目指す大規模なイベントであり、現在、それぞれの地域において整備が進んでいる。</p> <p>(1) 各会場の花を維持する方法として、イベント協力員を募集して緑化の維持管理をしていただいてはどうか。</p>	市長 所管部長
		2 亀岡市内の桜について	<p>亀岡市内の桜は全国でも有名になってきている。桜並木をクビアカツヤカミキリから守るため、京都市では、「パトロールボランティア」を募集し、早期発見を目指して取組が進められている。</p> <p>(1) 亀岡市でも桜守や桜の保存活動をされている皆さんだけではなく、亀岡市民へ広く呼びかけパトロールを実施してはどうか。</p>	市長 所管部長
		3 プラごみの分別について	<p>亀岡市議会は、去る1月19日に「環境先進都市を目指す亀岡市の取組」をテーマに、環境先進都市推進部の山内部長とトヨタ紡織株式会社 カーボンニュートラル環境センターCN推進室室長 羽柴正典氏にお越しいただき意見交換を行った。分別されたプラスチックごみのリサイクル利用の現状について話をする中で、分別されたプラスチックごみをリサイクルする段階で、プラスチックごみからアルミ箔を取り除くことが一番大変であるとのことであった。</p> <p>(1) その対策として、亀岡市で現在、取り組んでいるプラスチックごみの分別をさらに進め、アルミ箔付きプラスチックごみを分別していく取組を進めてはどうか。</p>	市長 所管部長
		4 歩道の街路樹について	<p>市道川東線及び府道郷ノ口余部線沿いの歩道は、街路樹が成長し大きく根上がりしており、歩行者や自転車が通行する際、危険を感じる箇所が多いため、早期に点検し改修工事を実施していただきたい。</p> <p>(1) 街路樹の根本にコンクリート仕切りと鉄板プレートが浮き上がっている箇所があ</p>	市長 所管部長

		<p>5 亀岡市内の交差点について</p> <p>6 学校における教育環境の整備について</p>	<p>り、大変危険であるため、現場を点検して早急に撤去できないか。</p> <p>市道及び府道の各交差点においては、車道と歩道の段差が大きく、三輪自転車では乗り越えにくく、毎回自転車から降りているという声を聞く。</p> <p>(1) 自転車から降りることなく走行できる交差点に改良できないか。</p> <p>(2) 現在、交差点の仕切りが大きなアール形状になっているが、今後はできるだけ直線部分を多く角だけアール形状に施工できないか。</p> <p>近年、全国の学校で発生した盗撮事件やいじめ問題がSNSやメディア等で取り上げられている。</p> <p>(1) 亀岡市教育委員会や学校現場では、児童生徒の盗撮事件の対策として、どのようなことに取り組んでいるのか。</p> <p>(2) 亀岡市内の小・中・義務教育学校では、携帯電話の所有や学校への持ち込みについてどのような取り決めを行っているのか。</p> <p>(3) 亀岡市内の小・中・義務教育学校において、これまで盗撮カメラ等の点検や調査を実施したことはあるのか。</p> <p>(4) これまで、児童生徒が安心して教育を受けることができる教育環境の整備について、保護者や関係者に説明を行ってきたのか。また、今後は点検や調査の結果報告等も含め、定期的に説明の場を設ける計画はあるのか。</p>	<p>市長 所管部長</p> <p>市長 教育長 所管部長</p>
8	<p>松山 雅行 3月4日(水) 15:15~</p> <p>※一問一答</p>	<p>1 JR千代川駅の整備について</p> <p>2 消防団ポンプ格納庫整備について</p>	<p>平成25年に策定された亀岡市バリアフリー基本構想(千代川駅周辺地区)において、快適な生活を支えるまちづくりのために鋭意取組を進めている。また、駅を基軸としたにぎわい創出など、まちづくりに地元も期待を寄せている。今後のビジョンについて問う。</p> <p>(1) 東西自由通路の整備における現在の進捗は。</p> <p>(2) 駅舎の改修についての今後の協議状況は。</p> <p>消防団は地域防災の最前線を担う重要な存在である。その活動拠点である消防団屯所は、団員の安全確保や迅速な災害対応の観点からも、極めて重要な施設である。市として、現状の把握及び今後の整備について問う。</p> <p>(1) 市として消防団屯所の老朽化や安全性等の現状把握の方法は。</p> <p>(2) 自治会、地元区、消防団から整備等の要望が提出された場合、千代川分団1部1班、2班の消防団屯所の現状と積載車配備等の対</p>	<p>市長 所管部長</p> <p>市長 所管部長</p>

			<p>策は、どのように考えているか。</p> <p>自由民主党・日本維新の会の与党整備新幹線建設推進プロジェクトチームにおいて、「亀岡ルート」「中間駅設置」も含めた8つのルートが検証されている。市長も本市、南丹市、京丹波町全体で合意形成を図っていきながら、20年30年後の未来を見据えたランドデザインを描いていくと施政方針演説でもあった。</p> <p>(1) 現在の基幹交通整備促進協議会から、「北陸新幹線の整備促進協議会」のみ再度単体で設立する考えであるのか。</p> <p>(2) 市民、行政、経済界も含めオール亀岡、オール京都丹波で20年先を見据えたランドデザインを描き、会議等の開催を考えているか。</p>	市長
		<p>3 北陸新幹線新大阪延伸計画について</p>		
		<p>4 大阪・関西万博のレガシー継承について</p>	<p>158もの国や地域が184日間集い、2557万人の一般来場者が訪れた大阪・関西万博であったが、本市においても万博の機会を通じて、他国や他地域、多くの交流や連携が生まれた。新たな挑戦や交流の広がりをレガシーとして残していく考えについて問う。</p> <p>(1) 大屋根リングの梁活用をはじめとした、レガシー継承について本市の取組は。</p> <p>(2) ミャクミャクファンミーティングを本市でも開催してはどうか。</p>	市長 所管部長
		<p>5 小学校給食無償化について</p>	<p>令和7年12月18日に自由民主党、日本維新の会、公明党で締結された三党合意に基づく学校給食費の抜本的な負担軽減（いわゆる給食無償化）について、本市の対応について問う。</p> <p>(1) 令和8年4月から国が進める小学校給食無償化について、現時点で市として把握している制度の方向性と自治体負担の考え方は。</p> <p>(2) 本市に一定の財政負担が生じる場合、年間影響額はどの程度と試算しているのか。</p> <p>(3) 本市は、物価やエネルギー高騰による給食代の高騰分を家庭負担無しで実施しているが、無償化の目的でもある給食の質を上げていく手法として、どのような考えがあるか。</p>	市長 教育長 所管部長
9	<p>木村 勲 3月5日(木) 10:00~</p> <p>※一問一答</p>	<p>1 北陸新幹線の誘致活動について</p>	<p>1月5日の新春年賀交歓会において、初夢とし、北陸新幹線の亀岡ルートを市としてアピールし、しっかりと要望するとご挨拶された。また、2月2日の記者会見でも再誘致を表明された。今後の誘致活動について問う。</p> <p>(1) 今後の活動計画は。</p> <p>(2) 北陸新幹線口丹波建設促進協議会が設置していた誘致看板は外されているが、今後再設置の予定は。</p>	市長 所管部長

		<p>(3) JR並河駅に、昭和39年東海道新幹線開業当時の0系先頭車両が展示されている。今まで何度も修理されているが、塗装の剥がれやさびが発生している。今後の修理予定は。</p>	
	2 降雪時の京都縦貫自動車道通行規制について	<p>2月8日夜から9日にかけて、雪により京都縦貫自動車道の長岡京ICから園部ICが通行止めとなり、京都市内と亀岡市内の間の通行ができなくなった。交通規制と今後の対策について問う。</p> <p>(1) 通行止めの規制基準は。</p> <p>(2) 園部以北は通行止めとなっていないが何が違うのか。</p> <p>(3) NEXCO西日本に対して雪対策の要望は。</p>	市長 所管部長
	3 降雪時のJR嵯峨野線運転見合せについて	<p>2月8日の朝に、雪によりJR嵯峨野線亀岡駅から園部間が運転見合せとなった。JR西日本への見合せ判断に対する要望について問う。</p> <p>(1) 運転見合せの基準は。</p> <p>(2) JR西日本に対し、状況を精査し見合せ判断することを要望する考えは。</p>	市長 所管部長
	4 かめおか霧のテラスについて	<p>今年も亀岡盆地に濃霧がかかり、亀岡カントリークラブ入口付近にあるかめおか霧のテラスには大勢の見学者が訪れている。経路は山道で狭く、帰りはゴルフ場に行く車との離合も多く危険である。3月15日に国道423号法貴バイパスの一部が開通する。このバイパス頂上に霧のテラスを設置することについて問う。</p> <p>(1) 霧のテラスを設置し道の駅として整備する考えは。</p> <p>(2) 立地条件は。</p>	市長 所管部長
	5 並河亀岡停車場線の交通安全対策について	<p>都市計画道路並河亀岡停車場線について、約400メートルの第2工区は、今年夏頃の完成予定と聞く。通学路としての安全対策について問う。</p> <p>(1) 1月28日に安全施設等に関する地元説明会があった。信号機や横断歩道設置の要望に対し、公安委員会からは、現状では1つも設置できないとの回答であった。開通後、通学路として利用する状況になったときに設置される可能性は。</p> <p>(2) 交差点に信号機が設置されない場合、横断者注意喚起灯を設置する考えは。</p>	市長 所管部長
	6 自転車の交通反則通告制度について	<p>4月1日から16歳以上の自転車運転者に交通反則通告制度が適用される。本市の自転車運転者に対する指導計画について問う。</p> <p>(1) 市民に対し、113種類の違反行為の交通指導を行う考えは。</p>	市長 所管部長

			(2) 自転車通勤する市職員に対する指導は。	
10	大西 陽春 3月5日(木) 10:45~ ※一問一答	1 国民健康保険事業について	国民健康保険料は他の健康保険に比べて構造的に負担が重い。市民から「払える国保料に」との要望が強い。 (1) 令和8年2月9日に開催された「国民健康保険運営協議会」において、来年度の国保料率是对前年約9.1%増、1万1,280円増えると聞いた。負担軽減の方法をどのように考えているか。 (2) 令和7年12月議会において、料率の据置きをするために基金充当だけでは足りない場合、法定外繰入をすれば、国の交付金の減額は約280万円との答弁であった。今こそ、法定外繰入を検討すべきでないか。 (3) 国が未就学児の均等割の5割軽減を18歳終了までに拡充するとしているが、本市で国の拡充に合わせて18歳までの均等割をなくせないか。	市長 所管部長
		2 加齢性難聴補聴器補助制度について	令和7年12月議会の市長の答弁で「加齢性難聴補聴器補助制度を予算化する」とあった。制度の詳細について問う。 (1) 対象者と助成額はどのようにするのか。また、その根拠は。 (2) 補聴器購入に当たってのケア及び購入後のアフターケアが大切だと考えるが所見は。	市長 所管部長
		3 介護事業所や利用者の支援について	厚生労働省の「2025年介護事業経営概況調査」が発表された。全国で訪問介護事業所経営が赤字や人材不足のため維持できなくなっている。介護事業所や利用者への本市の支援について問う。 (1) 本市が行っている以下の施策について問う。 ①令和6年度決算によると「亀岡市外国人介護人材雇用助成金」の利用状況は12件である。利用事業所数と各々の件数は。 ②福祉就職フェアの利用者数と就職に繋がった事例を把握しているか。 (2) 訪問介護事業所に対しガソリン代の補助ができないか。 (3) 本市独自の利用者負担軽減制度を創設できないか。	市長 所管部長
		4 学校給食について	中学校給食については保護者から期待が寄せられている。学校給食がより良いものになるように以下の点について問う。 (1) 新しく整備する給食センターは、DBO方式でプロポーザルしている。 ①現在のセンター運営とどのように変わるのか。	市長 教育長 所管部長

			<p>②メリットとして財政資金の効率化と運営の効率化が図れると令和7年12月議会で答弁されたが、デメリットとして考えられる要素はないのか。</p> <p>③新センターにおいて米はどこで炊飯する計画か。</p> <p>(2) 義務教育学校「育親学園」において提供される自校有機給食について問う。</p> <p>①運営方式はどのようになるのか。</p> <p>②地産地消・有機給食の具体的な展望は。</p> <p>(3) 新センターにおいても育親学園と同様に地産地消・有機給食となる計画か。</p>	
11	<p>富谷加都子 3月5日(木) 13:00~</p> <p>※一問一答</p>	<p>1 聴覚障がい者への情報保障支援について</p> <p>2 地域支援事業の報酬体系の適正化について</p>	<p>聴覚障がいや発話困難がある市民が、行政窓口において「いつでも・どこでも・正確に」意志疎通できる環境整備は、最優先課題である。聴覚障がい者への情報アクセシビリティの向上を図るため、利便性を高める手話リンクの導入を求め質問する。</p> <p>(1) 窓口における聴覚障がい者への情報保障手段(筆談、手話通訳、LINE等)の現状と、それぞれのメリット・デメリットをどのように分析しているのか。</p> <p>(2) 場所を問わない連絡手段として、「電話リレーサービス」の活用促進とともに、対面補助として「手話リンク」を組み合わせることで、隙間のない情報確保が可能と考えるが見解は。</p> <p>(3) 「手話リンク」は、専門の手話通訳者と即時に対話することができるため、職員の負担も軽減されると考えるが、導入を検討する考えは。</p> <p>(4) 主要窓口への試行導入(モデル事業)から開始し、検証を行う考えは。</p> <p>利用者の公平性と自立支援を両立する単価設定を求め質問する。</p> <p>(1) 要支援1・2の方が利用する通所型サービスの利用実績と利用者負担額が乖離している。市民からは、「なぜ、利用していない分まで支払う必要があるのか。」という不満の声があるが、市の認識は。</p> <p>(2) この不公平感が原因で、サービスの利用を控える、あるいは支払った分を無駄にしないために無理して通うといった「自立支援」に逆行する実態があるが、市の認識は。</p> <p>(3) 地域支援事業は、市町村独自の裁量が認められる。市民の納得が得られる本市独自の適正な単価設定として、段階的な定額制を検討すべきと考えるがどうか。</p>	<p>市長 所管部長</p> <p>市長 所管部長</p>

		<p>3 (仮称)キッズステーションについて</p> <p>4 障がい者のスポーツ振興について</p>	<p>2027年オープン予定の「(仮称)キッズステーション」は、「ガレリアかめおかの開放的な空間を生かし、多世代が長時間交流できる様々な魅力を有した居場所」として全体像が示された。そこで、市民参加型機能を備えた居場所となることを期待し、以下についての考えを問う。</p> <p>(1) 市民が「棚主」になれるコーナーとして、シェア型本棚「かめおか・マイ・シェルフ」(仮称)を整備する考えは。</p> <p>(2) 子どもたちが選書に関われるプロジェクトとして、「みんなでつくる蔵書」プロジェクト(仮称)を導入する考えは。</p> <p>(3) 屋外でも読書が楽しめる「アウトドアライブラリー」を整備するため、ガレリアかめおかの芝生ひろばなどに本を持ち出せるよう、専用のシートやブックキャリアを用意する考えは。</p> <p>障がい者の社会参加を実現する上で、スポーツ活動の選択肢を拡充し、機会を創出する取組を求め質問する。</p> <p>(1) 本市における障がい者スポーツ振興の現状は。</p> <p>(2) 令和6年度開催の京都亀岡ハーフマラソン大会では、10周年を祝い、日常の車椅子で参加できる種目として「900mファンラン」が設けられていた。当時、エントリーはなかったと聞かすが、正式に「日常車椅子部門」として固定化する考えは。</p> <p>(3) サンガスタジアムbyKYOCERAは、府内屈指のバリアフリー施設であり、eスポーツ施設においてパラスポーツ体験会も開催された。今後、障がい者のスポーツの選択肢を拡充する取組として、かめきたサンガ広場等も含め、施設周辺の空きスペースを活用したニュースポーツ体験イベント等を開催できないか。</p>	<p>市長 教育長 所管部長</p> <p>市長 所管部長</p>
12	<p>小林 仁 3月5日(木) 13:45~</p> <p>※一問一答</p>	<p>1 食料安全保障について</p>	<p>食料・農業・農村基本法の下に「みどりの食料システム法」、「食料供給困難事態対策法」、「食料システム法」が施行されている。これまでの農業政策は「環境負荷低減」が主眼であったが、食料の安全保障が制定され、「有事の供給体制」と「輸入資材への依存脱却」が強く意識されている。本市では令和5年2月にオーガニックビレッジ宣言を行い、学校給食においては地産オーガニック米の導入など全国をリードする実績がある。この実績は、食料の安全保障が求める「輸入肥料に頼らない強靱な農業」そのものである。これにより、市区町村にとっての農業施策は、産業振興だけでなく、住</p>	<p>市長 所管部長</p>

		<p>2 育親学園校区のグランドデザインについて</p>	<p>民の命を守る危機管理（安全保障）施策に格上げされた。その取組について問う。</p> <p>(1) 「食料供給困難事態対策法」の施行を受け、これまでのオーガニック施策が、環境施策から「地域の安全保障」の核となることに対してどう再評価するのか。</p> <p>(2) 「みどりの食料システム法」などで、市が負う責務等はどのようなものがあるのか。その対処は。</p> <p>(3) 「食料供給困難事態対策法」によると食料不足のおそれがある場合に、国が対策本部を設置し自治体にも協力を求めるが、平時からの備えが重要である。本市の地域防災計画において、災害時のみならず、資材高騰や輸入途絶による「食料供給困難事態」を想定した項目も追加すべきと考えるが所見は。</p> <p>(4) 現在のオーガニック給食米の備蓄を、地域内備蓄米（ローリングストック）として、管理・拡充する考えはあるか。</p> <p>(5) 「食料システム法」では、合理的な費用を考慮した価格形成が一つの柱となっているが、オーガニック給食米の買入れ価格の適正化、安全保障コストとしての住民への理解増進をどのように進めるのか。</p> <p>(6) 地産ができない都市部自治体へ、学校給食米と備蓄米を供給する協定を締結することは考えられないか。</p> <p>(7) 食料安全保障を機能させるためには、生産体制が必要であると考えますが、農業従事者の高齢化と担い手不足、農村地帯の過疎化は深刻な問題であり、補助金などの支援より担い手の育成が課題であると考えます。市独自予算でまちおこし協力隊の確保や新規就農者の確保はできないか。また公務員の「農業副業」も実現できないか。</p> <p>亀岡市西部地区4町においては過疎化・高齢化・少子化・若者の流出、農業後継者不足、耕作放棄地の増加・離農の増加、また空き家・空き地の増加や移動権の減少など課題は山積である。各町の個別課題を自治会が個別に処理するのではなく、中学校区という広域で機能を集約すべきものは広域で組織し、自治会や区で運営すべきものは各々がするという、市が強力にバックアップする重層型RMOの構築こそが本市の持続可能性を握る。そのための市側の覚悟と支援策を問う。</p> <p>(1) 畑野町では地域移送サービスが開始され、本市より西部地区4町への拡充が提案されている。4町を束ねる「広域RMO」と専門スタッフを配置し、実務を広域で担い各町の負担を軽減する考えはあるか。</p>	<p>市長 所管部長</p>
--	--	------------------------------	---	--------------------

			<p>(2) 西部地区3小学校廃校跡地の利活用について、12月議会で令和8年度より検討部会を開催するとの回答であった。子どもの声と姿が消えた今、にぎわいを取り戻さなければならない。廃校管理を地域に押し付けるのではなく、市が責任をもって維持しつつ、広域RMOで「稼ぐ事業」を展開し、にぎわいのある「トカイナカ」環境を整えるべきと考えるが所見は。</p> <p>(3) 移住定住促進について、地方移住の主な理由は、自然豊かな環境での心豊かな暮らし、都会の混雑や忙しさからの解放、低コストな生活の実現、そして子育て環境の改善である。</p> <p>①住みたいところに空き家バンク登録がないことも考えられるが需給の現状は。</p> <p>②空き家・空き地の掘り起こしの手法は。</p> <p>③移住定住の促進に対し、徳島県神山町ではNPO法人が指定管理を受け移住交流支援センターの運営を任されているシステムがあるが、本市においても移住定住の相談窓口を外部委託する考えはあるか。</p> <p>(4) 宮前町猪倉にある「ききょうの里」は運営者が高齢であり人員不足でもある。観光客の減少により地域は益々過疎化が進行する。</p> <p>①谷性寺門前地域の観光地からRMOなど広域の団体として活動する仕組みの提案はできないか。</p> <p>②「ききょうの里」の課題は補助金などの資金問題ではなく人員の問題である。RMO内の団体活動と位置付けることで、繁忙時の人員募集やトリップワーカーの取り込みなども考えられるが所見は。</p> <p>(5) 補助金には期限があるため補助金ありきの地域運営は継続しないと考える。補助金ありきの地域運営より先に、人口減少、高齢化地域をにぎわいのあるまちに変貌させることが市政の責務と考えるが所見は。</p>	
13	<p>大塚 建彦 3月5日(木) 14:45~</p> <p>※一問一答</p>	<p>1 保育体制の将来と課題について</p>	<p>本市は、保育士の確保に向け、宿舍借り上げ支援や奨学金返還支援など、先進的な取組を進めている。一方で、特に1歳児においては、保育所の入所を希望する保護者の期待に十分応えられない状況が続いており、職場復帰ができないなど、不安の声も少なくない。</p> <p>(1) 入園調整基準の公平性について、亀岡市の考えと基準の根拠は。</p> <p>(2) 医療・介護・福祉・消防救急など地域インフラを支えるエッセンシャルワーカーに対し、保育士加点に準ずる本市独自の加点を付与することはできないか。</p>	市長

		<p>2 本市における将来型上下水道政策について</p>	<p>(3) 令和8年4月入園が決定している1歳児がいる世帯について、就労形態別人数は。</p> <p>(4) 職種に関わらず、非常勤の雇用形態が一律で入園の優先順位に影響を与える理由は。</p> <p>本市において、公立保育所は地域の基盤的役割を担ってきた。一方で、民間保育所・認定こども園の充実も進んでいる。そのような中で、公立保育所の規模縮小や、民間園充実の方向性が検討されていたとの話を聞いている。</p> <p>(5) 現在、市として公立保育所の規模や役割について、中長期的にどのような方向性を目指しているのか。</p> <p>(6) 本市における園児数の将来推計と保育士確保の見通しはどうか。</p> <p>我が国の上下水道事業は、高度経済成長期に整備された施設や管路の老朽化が進む一方で、人口減少により料金収入は減少し、更新費用は増大するという、構造的な転換期を迎えている。</p> <p>(1) 将来的な維持管理費、更新費、人口減少等を踏まえ、現在進められている公共下水道施設の統合を目的とした事業の費用対効果について、本市の評価はどうか。</p> <p>(2) 今後、中山間地域における下水道事業は、下水道一択ではなく、地域性に応じて合併処理浄化槽も含めた複数の選択肢を検討してはどうか。</p> <p>水道分野において、国は上下水道を一体的に構築できる分散型水道の導入を検討している。</p> <p>(3) この方式の具体的な仕組みは。</p> <p>(4) 本市として、中山間地域などを対象に、下水道と合併処理浄化槽を組み合わせた将来型インフラ導入の可能性について、調査・研究する考えはあるのか。</p>	<p>市長 所管部長</p>
		<p>3 城下町歴史景観整備について</p>	<p>本年開催される全国都市緑化フェア in 京都丹波は、本市の魅力を市内外に発信する重要な機会である。しかし、その価値を真に高めるためには、花や装飾にとどまらず、本市の成り立ちを今に伝える亀山城、城下町の歴史資産と景観を磨き上げ、次世代へ継承していくという視点が不可欠であると考え。</p> <p>(1) 築城400年を記念して設置された60基の駒札は、本市としてどのような性格や位置づけを持つものと認識しているのか。</p> <p>(2) 駒札は現在、まちづくり推進部と産業観光部が所管しているが、管理責任の所在はどのように整理しているのか、また、劣化や損傷時の対応はどの部が最終的に判断するのか。</p>	<p>市長 所管部長</p>

			<p>(3) 緑化フェアにより、城下町回遊ルートが注目される中、歴史案内機能を縮小することは整合性を欠くのではないか、また、フェアを契機に再整備を図る考えはあるのか。</p> <p>(4) 紺屋町の圓通寺に建立されている瓦塔碑について、現在の保存状態及び傾斜・倒壊リスクを把握しているのか。</p> <p>(5) 瓦塔碑の保存状態を維持するためには修復が必要であるが、本市の考えは。</p> <p>(6) 市指定文化財の亀山城惣構跡（土塁）がある秋葉神社境内立木の枝が繁茂し景観を損ねている。文化財は景観を含めて価値を有するものであるが、適切な枝打ち・景観整備について、関係者と協議する考えはあるか。</p>	
14	<p>土岐 新 3月5日(木) 15:30~</p> <p>※一問一答</p>	<p>1 大井生涯学習センター付近の安全について</p> <p>2 JR並河駅南側踏切の拡幅について</p> <p>3 銭湯の誘致について</p>	<p>大井生涯学習センター付近の府道王子並河線は交通量が多く、横断歩道を利用する児童生徒や高齢者をはじめとする歩行者にとって危険な状況が見受けられる。安全対策の強化が急務であると考え、問う。</p> <p>(1) センター付近の横断歩道を横断する歩行者の安全性について、本市はどのように認識しているのか。</p> <p>(2) 安全対策について、道路管理者である京都府とさらなる協議を行うべきと考えるが所見は。</p> <p>(3) 本市で注意喚起灯を設置することは可能か。</p> <p>令和7年3月議会一般質問でも取上げ、7月11日には桂川市長同席のもと南丹土木事務所で踏切拡幅の要望を行った。引き続き実現に向け粘り強く取り組むため問う。</p> <p>(1) 都市計画道路並河亀岡停車場線の開通予定は。</p> <p>(2) 都市計画道路並河亀岡停車場線開通後、府道王子並河線が市道に移管されるまでに交通量調査の実施を要望できないか。</p> <p>(3) 市道移管前であるが、JR並河駅南側踏切の拡幅について本市はどのように考えているのか。</p> <p>日本の伝統文化である「銭湯」は、本市から姿を消した。市民から復活を望む声も聞かぬ中、地域活性化・福祉・防災の観点からもその意義は大きいと考え、問う。</p> <p>(1) 市民からの銭湯復活の声は届いていないのか。</p> <p>(2) 銭湯は地域活性化やまちづくり政策に資する可能性があると考え、問うが所見は。</p>	<p>市長 所管部長</p> <p>市長 所管部長</p> <p>市長 所管部長</p>

		<p>4 亀岡市立第六保育所の今後について</p> <p>5 教育について</p>	<p>(3) 高齢者の孤立防止等、福祉施策への効果について、どのように考えるのか。</p> <p>(4) 災害時の入浴拠点としての活用など、防災施策上の意義についてどのように認識しているのか。</p> <p>(5) 銭湯には様々な効果があると考え、ガレリアかめおかの隣接地に銭湯を誘致する可能性と見解は。</p> <p>桂川市長は、以前から老朽化している保育所に対し優先順位をつけ、子どもたちが安全・安心に通える保育所づくりに鋭意取り組みご尽力いただいている。老朽化が進む第六保育所について、対応が必要であると考え、問う。</p> <p>(1) 現時点での建物の老朽化状況は。</p> <p>(2) 今後修繕する予定の時期と内容は。</p> <p>(3) 土地はUR都市機構から借用しているが、賃借料等の費用は発生しているのか。</p> <p>(4) 建替えが必要となった場合、土地利用契約はどのようになるのか。</p> <p>(5) この際ガレリアかめおかへの移転も含め再編成を検討すべきだと考えるが所見は。</p> <p>未来ある子どもたちの教育は、本市の将来を左右する重要政策である。市内の全小・中・義務教育学校に配備されているiPadの活用について、時代に即しつつも一度立ち止まり検証する必要があると考え、問う。</p> <p>(1) 授業及び宿題におけるiPad活用の主な内容は。</p> <p>(2) iPad普及により、読解力・思考力・集中力の低下が懸念されるが、本市の認識は。</p> <p>(3) 本市独自で活用方針を見直し、基礎学力向上に資する取組を強化すべきと考えるが所見は。</p>	<p>市長 所管部長</p> <p>市長 教育長 所管部長</p>
15	<p>片山 輝夫 3月6日(金) 10:00~</p> <p>※一問一答</p>	<p>1 大本毘沙門荘の利活用について</p>	<p>宿泊・文化体験施設に利活用を検討している「大本毘沙門荘」について問う。</p> <p>(1) 設計、改修工事に約3億2,000万円を投入するが、公共工事として費用対効果(投資効率)を算定しているのか。</p> <p>(2) 管理運営はどのような方式で民間に委ねるのか。</p> <p>(3) 毎年度の収支計画はどう算定されているのか。</p> <p>(4) 単年度運営に黒字または赤字が発生した場合どのように会計処理されるのか。</p> <p>(5) 無償の貸借契約が期間満了になれば、施設の所有権はどうなるのか。</p>	<p>市長 所管部長</p>

	<p>2 廃旅館「有楽荘」の宿泊施設改修について</p>	<p>湯の花温泉の廃旅館「有楽荘」を廃旅館リノベーションによる温泉街再生事業として宿泊施設に利活用する事業が今年度補正予算に計上された。</p> <p>(1) 事業の整備主体はどこになるのか。</p> <p>(2) 湯の花温泉全体の活性化が目的の事業であるが、湯の花温泉観光旅館協同組合などの地元組織とはどのように連携しているのか。</p> <p>(3) 現時点の国との協議状況はどのようになっているのか。</p> <p>(4) 国の交付金で事業実施が困難になった場合は、どのような対応になるのか。</p>	<p>市長 所管部長</p>
	<p>3 並河亀岡停車場線の供用開始について</p>	<p>犬飼川の橋梁工事の来年度完成により、並河亀岡停車場線の供用開始が来年度に予定されている。</p> <p>(1) 南丹都市計画事業大井町南部区画整理事業により子育て世代が入居されている前脇地区内から、通学時の安全確保に不可欠な横断歩道の設置要望が出されている。市はどのように認識しているのか。</p> <p>(2) JR嵯峨野線の踏切手前にある交差点には信号機が設置されるが、府道王子並河線との接続区間は急カーブの上、幅員が狭く地元から拡幅の要望が出ており、早急に対応を求めるが所見は。</p> <p>(3) 交差点形状の変更により、農耕車両が犬飼川橋梁手前の急勾配区間を走行することになる。農業者から側道設置の要望が出ており、早急に対応を求めるが所見は。</p> <p>(4) 供用開始により府道王子並河線の交通量が減少し、安全が確保され、JR並河駅手前の大井踏切改良も不要になるとの予測であるが、交通量の変動を把握するため、供用開始前、供用開始直後、開始半年後など、複数回交通量調査を実施すべきでないか。</p>	<p>市長 所管部長</p>
	<p>4 保津橋周辺の照明について</p>	<p>保津橋左岸下流域は保津川かわまちづくり計画により、高水敷を利活用した運動公園として多くの市民に活用されているが、夜間の照明について、課題の声が寄せられている。</p> <p>(1) 保津橋の歩道照明が非常に暗く、現在の照明器具をLEDに交換するなど、照明度を上げる工夫が必要ではないか。</p> <p>(2) 保津橋左岸下流側は、主に少年サッカーの練習場として利活用されている。練習時間が夜間に及ぶため、終了後の後片づけや帰宅に際し、真っ暗な河川敷を自転車などで走行することに、不安の声が多く寄せられている。河川区域ではあるが、河川の規定断面に支障のない構造であれば照明器具</p>	<p>市長 所管部長</p>

			の設置も可能であり、公園管理者として府に設置要望できないか。	
16	林 徹司 3月6日(金) 10:45~ ※一問一答	1 交流人口や移住推進の取組について	日本において避けがたい人口減少は本市も同様に見られる。しかし本市は対策として住みやすく魅力あるまちづくりにより子育て世代を中心に一定の評価と動きもあると考える。 (1) 本市独自どうたう「ふるさと住民登録制度」とはどのような独自制度なのか。 (2) 本市の観光は、日帰り型が中心だが、滞在時間を延ばすための戦略はあるのか。 (3) 登録者が地域活動・産業・教育に関与する仕組みはあるのか。 (4) 広域的地域活性化のための基盤整備に関する法律の一部を改正する法律案に基づく特定居住支援法人についてはどのように進めていくのか。 (5) 交流人口、そして関係人口増を視野に入れ、今後も切れ目ない拡大を進めるため必要とされるローカルマネジメント法人の検討と本市の方向性は。 (6) 関係人口→二地域居住→定住へと導いていけるようにはどのような戦略を考えているのか。	市長 所管部長
		2 安全・安心なまちづくりについて	未然に事故や犯罪を防ぐことは安全・安心な住民生活を営む上で重要なことである。 (1) 市道広田平松線上、東つつじヶ丘曙台3丁目25-8前の坂でカーブ付近は両側に深い側溝があり、大変危険である。車両を避けるために、子どもたちが側溝に落ちることもあり得るため、蓋を掛けることはできないか。 (2) 中矢田篠線上の平塚橋付近と曙橋付近に信号機がなく、歩行者がいても車が止まらない横断歩道がある。この横断歩道に横断用旗を設置できないか。 (3) 市営つつじヶ丘アザレアヒルズは2棟で160戸あるが、A棟B棟の1階入り口付近2箇所に防犯カメラを設置することはできないか。	市長 所管部長
		3 環境先進都市としての取組について	世界に誇れる環境先進都市・亀岡市として市民の皆さまの理解も深まり、シビックプライドが育まれてきているのではないかと感じる。 (1) とともに生きるプラごみゼロをテーマに連携・パートナーシップ協定が締結されてきたが現状は。 (2) 本市における使用済みおむつ等処理資源循環加速化事業の状況は。 (3) 現在は公立保育所等が対象であるが、介護施設等の使用済みおむつ等も対象に加えてはどうか。	市長 所管部長

		4 OICKの取組と展望について	<p>地域の未来をデザインする産学官連携の重要拠点としてスタートしたオープンイノベーションセンター・亀岡は活動してから5年目を迎え今後の展望と期待も大きいと言える。</p> <p>(1) オープンイノベーションセンター・亀岡の現状は。</p> <p>(2) グリーンイノベーション分野におけるスマートアグリハウスの状況は。</p> <p>(3) 取り組んでいる情報発信はどのように行いました、その反響はどうか。</p> <p>(4) 今後の展開や将来性についてはどうか。</p>	市長 所管部長
17	大石 慶明 3月6日(金) 13:00~ ※一問一答	<p>1 本市の財政運営について</p> <p>2 大阪方面へのさらなるアクセス整備について</p> <p>3 認知症患者の支援について</p>	<p>本市における近年の財政状況を見ると大幅に改善され、順調に推移していると考えている。一方高市総理は積極財政を推し進める中、期限付きで食料品に限り、消費税ゼロに取り組む方針を発表されている。そこで本市の財政への影響及び運営について問う。</p> <p>(1) 食料品の消費税ゼロに伴う影響について問う。</p> <p>① 全国で年間5兆円が減収となるといわれているが本市への影響は。</p> <p>② 特に飲食業界への影響が大きいと考えられるが、本市の関連団体との対応策の検討に取り組む考えは。</p> <p>(2) 今後さらなる安定財源の確保が必要となるが、安定財源確保に向けた取組は。</p> <p>(3) 安定収入の確保に併せて支出の削減に向けた取組も必要と考えるが見解は。</p> <p>2024年に北大阪急行電鉄南北線が箕面萱野駅まで延伸し、箕面トンネルを抜ければ本市から大阪中心部までのアクセスの利便性が向上した。また、現在、国道423号の整備も進んでいる。そこで、大阪方面へのさらなるアクセス整備に取り組む考えについて問う。</p> <p>(1) 大阪市、箕面市との連携について問う。</p> <p>① 国道423号を箕面市箕面森町まで拡幅整備を要望する考えは。</p> <p>② 本市から北大阪急行電鉄箕面萱野駅間に公共交通機関を導入する考えは。</p> <p>(2) 豊能町には能勢電鉄の妙見口駅があり、阪急電車へ乗り継ぐことにより池田市、大阪市内へのアクセスが容易となる環境があるが、本市から妙見口駅への公共交通機関を導入する考えは。</p> <p>本市の高齢化率は年々上昇し続け、31%を超えており、2050年頃には43%に達すると推定されている。これに伴い認知症患者が増加すると考える。そこで本市における認知症患者支援について問う。</p> <p>(1) 認知症患者数は。</p>	<p>市長 所管部長</p> <p>市長 所管部長</p> <p>市長 所管部長</p>

		<p>4 「住みたいまち」への取組について</p>	<p>(2)「認知症サポーター養成講座」は、認知症の人やその家族を温かく見守り、支援することを目的に実施されている。</p> <p>①自治会ごとの養成状況は。</p> <p>②認知症サポーターの活動状況は。</p> <p>(3) 認知症の疑いがある人の医療機関の受診率は7%程度であると報告されている。</p> <p>①本市における受診率は。</p> <p>②早期発見・治療につなげるための受診率向上の取組状況は。</p> <p>(4) 認知症家族に対する支援施策は。</p> <p>(5) 認知症患者の支援策として、福岡市では「ユマニチュード」事業を実施しているが、これらを参考にして充実させる考えは。</p> <p>過日、街の住みこちランキング&住みたい街ランキングが大東建託グループより発表された。残念ながら本市は上位に入っていなかった。そこで住みたいまちに選ばれる取組について問う。</p> <p>(1)本市における子どもファースト宣言以降の世帯数及び人口推移について問う。</p> <p>①人口の流入及び流失の推移は。</p> <p>②世帯数の推移は。</p> <p>(2) 空き家・空き地バンクの登録状況は。</p> <p>(3) 空き家・空き地バンク制度などを活用して本市へ移住された世帯数は。</p> <p>(4)「移住促進特別区域」の活用状況は。</p> <p>(5)「ふるさと住民登録制度」の推進に向けた取組は。</p> <p>(6) 流失人口について問う。</p> <p>①原因分析の状況は。</p> <p>②分析結果に基づく対策は。</p> <p>(7) 住みたいまちに選ばれるため、また、人口増加に向けた課題や施策についての考えは。</p>	<p>市長 所管部長</p>
18	<p>平本 英久 3月6日(金) 13:45~</p> <p>※一問一答</p>	<p>1 市長の政治姿勢について</p>	<p>これまでも子どもファースト宣言を発出し、「ガレリアかめおか」や「サンガスタジアム」において子どもの遊び場の整備や環境先進都市として多くの民間企業と連携を行い、「Circular Kameoka Lab」などを活用した様々なにぎわいの創出に取り組んできた本市であるが、桂川市長が目指す今後の事業展開や目指す姿について問う。</p> <p>(1) 京都サンガF.C.の練習場についての現状と進捗は。</p> <p>(2) 練習場の整備に向けた今後の見通しは。</p> <p>(3) 練習グラウンドの誘致による本市における効果と成果は。</p> <p>(4) 全国都市緑化フェア in 京都丹波開催に向けた現状と進捗は。</p>	<p>市長</p>

		<p>2 本市のまちづくりについて</p> <p>3 環境先進都市としての新たな取組について</p>	<p>(5) 全国都市緑化フェア in 京都丹波では、どのような集客を行い、にぎわい創出につなげるのか。</p> <p>(6) 地域商社の設立に向けた現状と進捗は。</p> <p>(7) 地域商社による経済的な効果や成果をどのように見込んでいるのか。</p> <p>これまで多くの企業誘致による雇用の創出や市税収入増に向けた取組、また社会情勢の変化や経年による劣化も含めて再インフラ整備に取り組んでいる本市であるが、今後のまちづくりについて問う。</p> <p>(1) 市道合戦野八幡線と国道9号交差点の部分拡幅工事が完了したが、今後の行政手続きはどのように進むのか。</p> <p>(2) 篠町王子区内の市道堂山線の道路付け替え工事に向けた進捗は。</p> <p>(3) 市道堂山線の道路整備に向けた今後の見通しは。</p> <p>(4) 亀岡市篠町篠インター土地区画整理事業の進捗は。</p> <p>(5) 当該区画整理事業の竣工に向けた見通しは。</p> <p>(6) 当該区画整理地隣接団地周辺の交通安全対策はどのようにするのか。</p> <p>(7) 市道馬堀停車場線広道交差点の改修工事の現状と見通しは。</p> <p>環境先進都市を目指して様々な民間企業との連携協定を通して先進的な環境政策に取り組んできたが、成果と今後の取組について問う。</p> <p>(1) 先般プレオープンされた「めぐるステーション」での成果をどのように分析しているのか。</p> <p>(2) 今後の「めぐるステーション」の展開をどのように考えているのか。</p> <p>(3) 「めぐるステーション」事業を通じて本市として目指す成果はどのようなものか。</p>	<p>市長 所管部長</p> <p>市長 所管部長</p>
19	<p>梅本 靖博 3月6日(金) 14:45~</p> <p>※一問一答</p>	<p>1 開発公園の実態と支援について</p>	<p>地元が管理主体となる「開発公園」と市が設置・管理する「都市公園」について、公園の外周やのり面に生育する樹木の枝葉や根が、隣接住宅に侵入する等の問題が生じている。その実態の認識と管理区分について問う。</p> <p>(1) 市は現場の実態を把握しているのか。</p> <p>(2) 地元負担に対する市の補助制度の評価と今後の補助制度の持続可能性についての考えは。</p> <p>(3) 地元管理の限界を超える事例に対し、市が関与する新たな枠組みを検討する考えは。</p>	<p>市長 所管部長</p>

		<p>2 さくら公園 体育館の周辺整備について</p>	<p>(4) 地域活動を行政が公的に位置づけ、協働で活動を進める指定地域共同活動団体制度が必要ではないか。</p> <p>さくら公園体育館内外のトイレ、施設の利用実態や駐車場不足、周辺整備について問う。</p> <p>(1) トイレの洋式化・バリアフリー化に向けた今後の改修方針について、本市の考えはどうか。</p> <p>(2) 駐車場確保に向け、短期的・中長期的な取組の検討状況は。</p> <p>(3) 未利用民間施設について、これまで調査や情報収集を行い、施設の取得や活用について検討したことはあるのか。</p> <p>(4) 本市の新たな観光・交流拠点として総合的に整備していく考えは。</p>	<p>市長 所管部長</p>
		<p>3 財政健全化の判断について</p>	<p>本市の財政健全化判断比率について問う。</p> <p>(1) 財政健全化判断比率の視点で見た場合、現在は政策判断として投資を積極的に進める局面なのか、それとも慎重に構えるべき局面なのか、本市の認識はどうか。</p> <p>(2) 本市財政において、最も警戒しているリスクは何か。</p> <p>(3) 持続可能な財政運営の観点から、今後の施策について、短期・中期・長期の時間軸の中で、どのように優先順位を整理していくのか。</p>	<p>市長 所管部長</p>
		<p>4 知的障がい者の紙おむつの支援について</p>	<p>令和8年度当初予算において、この支援制度の創設が計画されており、これが実現すれば、より多くの方へ支援が行き届き、市民生活の大きな助けになると考える。このことを重く受け止め、制度の内容とともに、制度化に至った本市の思いと決意について問う。</p> <p>(1) 調査や聞き取り等の結果から制度の創設へ、どのようにつながったのか。</p> <p>(2) 本制度の支援内容と、対象者の基準の基本的な考え方は。</p> <p>(3) 利用しやすい制度運用に向け、相談体制の整備、関係機関との連携、周知の工夫などの取組を行う考えは。</p>	<p>市長 所管部長</p>
		<p>5 市道馬堀駅国道線への信号機設置について</p>	<p>市道馬堀駅国道線の池田歯科医院に隣接する交差点の信号機設置は、交通安全上の課題とされてきた。このたび、用地買収を終え、今後の交差点改良工事のスケジュール及び信号機の設置について問う。</p> <p>(1) 交差点改良工事の進捗状況と今後の具体的な完了予定時期は。</p>	<p>市長 所管部長</p>

			<p>(2) 交差点改良工事が完了した後、京都府公安委員会と信号機設置に関する協議を進める過程で、本市が主体的に関与する考えは。</p> <p>(3) 本交差点の交通安全対策について、市が調整役となり、自治会、地元である野条区、学校関係者、保護者等を交えた意見交換や現地確認の場を設ける考えは。</p>	
20	<p>法貴 隆司 3月6日(金) 15:30~</p> <p>※一問一答</p>	<p>1 市長の政治姿勢について</p> <p>2 選挙の効率化について</p>	<p>人口減少や少子高齢化が進む中、全国の自治体では定住人口だけでなく、地域と継続的に関わる関係人口の創出・拡大が重要な政策課題となっている。近年は都市部に生活拠点を置きながら、地方にも拠点を持つ二地域居住という新しい暮らし方が広がりつつあり、国においてもふるさと住民登録制度など、新たな制度設計が議論されている。</p> <p>(1) 亀岡市が取り組むふるさと住民登録制度と二拠点居住制度とはどのようなものか。</p> <p>(2) 今後のまちづくりにおいて、ふるさと住民登録制度等をどのように位置づけているのか。</p> <p>(3) ふるさと住民登録制度等の登録者が、自治会活動や地域行事に関わる仕組みについての見解は。</p> <p>(4) 亀岡市のふるさと住民登録制度の運用開始時期と今後の進め方はどのようなものか。</p> <p>(5) 制度を進める場合、目標や検証するため効果指標はどのようなものにするのか。</p> <p>選挙は民主主義の根幹を支える重要なものである。令和7年に実施された参議院議員通常選挙における商業施設での期日前投票所の設置に係る効果の検証、今後の投票環境整備や新たな制度活用を含め選挙の効率化に取り組む必要がある。</p> <p>(1) 令和7年の参議院議員通常選挙において、商業施設に設置された投票所の実績と課題は。</p> <p>(2) 今回の衆議院議員総選挙における、亀岡市内の投票所の設置数と当日の投票者が100人未満の投票所数は。</p> <p>(3) 亀岡市の投票所の設置基準はどのようなものか。</p> <p>(4) 電子投票導入についての見解は。</p> <p>(5) 投票率の向上と職員の負担軽減を図るとともに、有権者が投票しやすくなるよう、期日前投票所の拡大と既存投票所の見直しを検討してはどうか。</p>	<p>市長</p> <p>市長 所管部長 選挙管理委員会委員長</p>

		<p>3 インフラ整備について</p>	<p>(6) 移動期日前投票所を取り入れてはどうか。</p> <p>ほ場整備により新設された道路や河川沿い環境は、住民の通行安全や防犯・防災の観点から重要なインフラであり、管理の明確化や不法投棄対策を含め、行政として地域の安全確保に取り組む必要がある。</p> <p>(1) 府道東掛小林線と国道423号の交差点である南条交差点から東掛小林線を穴太寺方向へ約400メートル北上した辺りから、東向きにほ場整備で新しくできた道路が国道423号沿いのJAガソリンスタンド北側につながっているが、この道路は将来、市道認定されるのか。</p> <p>(2) 曾我部町南条地内で、市道安町南条線の曾我谷川に架かる久保橋の上流約200メートル付近の曾我谷川左岸の竹やぶに不法投棄が後を絶たないので、竹やぶを伐採できないか。</p>	<p>市長 所管部長</p>
		<p>4 安全・安心について</p>	<p>市民が安心して暮らせるまちの実現に向け、防犯・交通・災害対策の現状と課題を把握し、施策の充実を図る必要がある。</p> <p>(1) 国道9号老ノ坂峠や京都縦貫自動車道において、最近、雪による予防的通行止めが行われているが、通行止めを行う基準は。</p> <p>(2) 行政が管理する防犯カメラにおける今年度の新規設置状況と今後の拡充予定は。</p> <p>(3) 消防団員の報酬を段階的に引き上げているが、最終的な水準は。</p> <p>(4) 消防団の共済掛金を公費負担にできないか。</p>	<p>市長 所管部長</p>